

平成30年度 県立水戸第一高等学校自己評価表

目指す学校像	○授業を中心とした、意欲的で活気ある学習活動を展開する学校 ○生徒が、特別活動(学校行事, ホームルーム, 生徒会活動), 部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し, 能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校 ○生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>平成29年度の各教科・校務分掌・年次(学年)の達成状況はAが6, Bが4であり, 総括的には目標をほぼ達成できたといえる。</p> <p>進学状況については, 国公立大学の現役合格者数が5年連続で120名を超えたが, 総数は185名と5年ぶりに200名を割り込んだ。東京大学は現役で4名, 既卒2名で計6名にとどまった。また, 国公立大学・準大学の医学部医学科合格者は, 全国的に厳しい入試が続く中, 現役7名, 既卒5名の計12名で, 現役が健闘した。早稲田, 慶應, 上智の難関私立大学については, 各大学が合格者を絞る中, 本校の合格者数も減少している。</p> <p>特別活動については, 部・同好会活動の加入率が90%を超え, 10以上の部が全国大会・関東大会に出場している。さらにホームルーム活動, 生徒会活動も活発に行われている。クラスマッチ・学苑祭・歩く会をはじめとした学校行事は, 生徒主体の実行委員会によって自主的に運営され, 充実した内容となっている。</p> <p>平成23年度から実施している60分授業をさらに効果的に進めていくために, より一層授業の質の向上に努めるとともに, 生徒の心に火をつける教育を進めていきたい。</p>	教育課程の工夫改善と学習指導の充実	①新学習指導要領の告示を踏まえ, 単位制を活用した新しい教育課程の編成に向けて検討を進める。	B
	②電子黒板を活用するなどして, より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	A	
	③拡充した夏季課外を円滑に実施し, 生徒の進路希望実現に資する学力の向上を図る。	B	
	④60分授業の効果を高めるために, さらなる授業の質の向上を目指して, 授業に係る研修機会の確保・充実に努める。	A	
	進路意識の高揚と確かな学力の養成による進路希望の実現	⑤難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大)や国公立大医学部医学科等への進路希望実現を支援し, 現役進学率の向上及び既卒生を含めた国公立大学合格者数の増加に努める。	B
	⑥卒業生の協力を得るとともに, 大学や病院と連携して高い志を持って医学部に進学し, 将来医師として社会に貢献できる人材の育成に取り組む。	A	
	健康安全指導の充実	⑦健康安全に留意し, 心身ともに健康で, 生き生きとした学校生活を送れるよう指導する。	A
	特別活動等の充実	⑧特別活動(学校行事, ホームルーム, 生徒会活動), 部活動等の充実をはかり, 創造性を養い, 自主自立の精神の確立に努める。	A
		⑨学校行事を適切に配置することにより, 各行事の円滑な実施と充実に努め, 新たな伝統の創造を目指す。	B
	将来を見据えた教育活動の見直しと充実	⑩グローバル化する社会に対応できる人材を育成するために, 変化する社会を見通しながら, 教育活動の見直しと充実に努める。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 大学入学共通テストの概要が見え始め、課題や授業の中で着地点を見据えて記述対策を強化する授業が展開できた。今後も科内全体で情報を共有しつつ進路意識を高める指導を継続していきたい。 60分の授業時間を有効に使うため、各学年とも小テストを実施したり、また生徒の習熟状況に応じて進度や指導内容を軌道修正しながら進めることができた。次年度も継続し、効果的な指導に繋げたい。 各自や学年担当者間においては常時授業に係る研修を重ねることで指導方法の研究を進めた。教科全体として電子黒板を活用しての学習指導について重ねて研修を持つことができた。次年度も継続したい。	
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B		
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A			
	国語	国語の学習に対する意欲・関心を高める。	○授業方法を工夫改善し、教員相互に授業を公開するなど、随時教科内における研修等を行い、指導方法に対する研究を深めていく。 ○指導内容・方法・進度について、各学年の担当者間での打合せを綿密に行う。	B	A 日々の指導について、各学年の担当者間においては相当綿密に、また頻繁に打合せを行うことができた。相互の授業公開や教科全体での研修をさらに増やすことができるよう計画したい。 小テストの実施による基礎学力の充実、授業で課した課題や国立大個別試験の過去問題への添削指導、副教材の有効な活用、定期考査における設問構成の工夫については、各自が積極的な意識のもとに取り組むことができた。特に校内模試について学年を越えて今後のあり方について検討できた。 課題の与え方については、やみくもにこれを課すのではなく、各学年担当者間の慎重な打合せのもと、段階的に能動的な学習活動へと移行できるように、時期やタイミング、また習熟度をよく考慮しながら課した。特に1年時の入学前の課題について工夫をすることができた。次年度も継続したい。	
		基礎学力の定着を図り、段階的に難関大学入学試験に対応できる学力の養成を図る。	○小テスト等によって基礎学力の定着を図る。 ○適宜添削指導を実施し、難関大学入試に対応可能な文章読解力と表現力の養成を図る。 ○副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。 ○定期考査について、基本から発展までの設問構成を工夫し、平均点50～60点台の問題	A		
		自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。	○課題等を生徒の実態に即して適宜与え、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育み、段階的に自立的学習に移行できるよう促す。 ○読書意欲を喚起し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。	A		
	地歴公民	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 大学の学問内容との関連を意識した授業を基本としながら、思考力、判断力、表現力などの生徒の能力を伸長する方法について研究を進めたい。 本質的なことをわかりやすくを目標に、各科目において授業内容の充実に努めた。記述や議論など生徒の主体的な活動をとり入れていきたい。 新課程を意識し、授業内容・教材・授業方法などの検討に着手したい。課題意識の共有や新たな情報の確保につとめ、さらなる指導法の向上に努めたい。
			充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	A	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B		
地歴公民		綿密な教材研究や授業改善を進めることで、進路実現のために必要な確かな学力を養成する。	○専門性に裏打ちされた授業を展開し、生徒の知的好奇心を喚起させる。 ○基礎・基本を徹底させるとともに、その知識を生かして自ら思考し、課題に取り組んでいく姿勢を身につけさせる。 ○国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を綿密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより学力を向上させる。	B	A 1年次での「税の作文」・新聞を利用した課題学習や、2・3年次各科目での科目特有な見方・考え方を養う授業を引き続き継続する。こうして喚起された興味・関心をもとに、生徒自らが課題を設定し、探究活動が行えるよう支援をしていきたい。入試への具体的な対応としては、3年次の9月からは、国公立大二次試験対策、基礎力養成など多様な課外を実施し、上位者から下位者まで学力の向上と差の解消を図っている。 学力の3要素を踏まえ、主体的な学びを意識した授業改善や考査問題の質的向上を継続した。今年導入された電子黒板については、各授業担当者が積極的に活用したが、授業見学や意見交換などを通してノウハウの共有化を進めている。また従来から続けてきた入試問題の研究だけでなく、新テスト・新学習指導要領など教育改革への対応についても、科目担当者間で情報交換を頻繁にして、指導方法の向上を図ってきたい。	
		教科研修を充実させることで、教員の授業力の向上や教育課程の改善につなげ、これからの教育改革への対応を図る。	○指導力の涵養を視野に入れ、高い見識の修得を目指した教科研修を積極的に実施する。受験指導では個別の入試に的確に対応できる体制の構築を図る。 ○科目担当者間での授業の進度、指導方法など綿密な打合せを行い、課題意識を共有し、指導を充実させる。 ○電子黒板などICT機器の活用をすすめて実践事例を蓄積し、ノウハウの共有化を図る。 ○新課程に対応するための内容精選や校内模試の在り方など、地歴公民科の将来像についての話し合いを継続する。	A		
				A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
数学	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A	授業や課題で扱う内容に発展的な問題を取り入れ、生徒が興味・関心をもって主体的に取り組めるよう工夫した。継続して指導方法の研究に努める。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B A		生徒の実態把握に努めながら、授業の進度や指導内容を検討した。次年度も検討を重ね、よりよいものを構築していく。 予備校主催の研修会への参加や教科内での授業参観を積極的に実施し、指導方法の研究に努めた。さらに教科内で情報を共有し、継続して研究をしていく。
		授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。	○予習・復習を励行させるとともに、課題等の提出を徹底させる。 ○学年担当者間の連絡を密にし、教材の精選と授業内容の充実に図るとともに、様々な解法を例示するなどして、生徒の興味・関心を高める。 ○電子黒板などICT機器の実践事例やノウハウを蓄積し、実践することで生徒の授業理解の深化を図る。	B		予習・復習を励行し、学習内容の定着を図れるように指導した。課題提出の徹底を図るとともに、授業や課題に対して受け身の生徒もいるので、さらに工夫を図る必要がある。 学年担当者間の連絡を密にして、教材を精選し、授業内容の充実に図ることができた。次年度も生徒の実態把握に努め、よりよい指導方法を探求していく。
	進路実現のための学力向上を図る。	○考査・試験の問題は精選・検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○入試問題等を日頃から研究し、積極的に授業に取り入れ、入試に対応できる力をつけさせる。 ○入試問題分析会(東京大・京都大・東北大)を実施し、入試問題研究や教材研究により教員のレベルアップを図る。	A A	A	学年担当者間で考査・試験の出題内容を検討し、指導方法を工夫したが、実施後の分析については、さらに充実に図る必要がある。入試問題等の発展的な内容や大学入学共通テストを意識した問題を授業や課題に取り入れ、今後も入試に対応できる力の育成に努めていきたい。 また、教科内で東大の入試問題分析会を行い、傾向を分析するとともに、指導方法についても研究し、共有を図った。次年度も分析会を継続して行うとともに、生徒の志望大学を踏まえ対象大学を増やすことを検討する。	
理科	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A	生徒の主体的な取り組みを高めるような指導法・教材・教具を工夫し、授業の中での活動を重視してきた。来年度も、さらなる工夫を進めていきたい。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A B		生徒の授業に対する定着度を注意深く観察しながら、各科目において授業内容の充実に努めた。記述や議論など生徒の主体的な活動にも取り組んだ。 校内・校外の各種研修会に積極的に参加し、指導技術の向上に努めた。来年度も研修を継続していきたい。
		知的好奇心を育て、科学的な思考が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象を、生徒が実際に実物を見て、触れて、それらについて考察し、科学的な思考を深められるように、演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○科学的な思考を身に付けられるように、過程が確認できる形式のレポート作成の指導をする。 ○先端の科学技術について、授業内で適宜話題に出し触れていく。	A		各学年とも多くの観察・演示・生徒実験を取り入れた授業を行い、レポート提出などを通し、生徒が主体的に理解する姿勢の育てる指導を行った。来年度については、観察・実験においても、一層主体的・対話的な学びの場を工夫して実施し、生徒の理科的思考や態度を身に付けさせたい。
保健体育	各科共通	確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○基本的な原理・法則の理解を深め、さらに問題演習を盛り込み、演習量を確保する。 ○国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより学力を向上させる。 ○校内試験毎にテストの見直しをさせ、基礎学力の定着を図る。	A	A	校内試験毎に、テストの見直しをさせ、基礎基本の定着を図ると共に、大学入試の動向を踏まえ、授業や考査にそれらを反映し、学力向上を図った。大学入学共通テストを意識した問題を授業に取り入れ、今後も入試に対応できる力の育成に努めていきたい。
		新学習指導要領や新テストに向け、研修の確保・充実に努め、教員の授業力向上・これからの時代に求められる教育のよりよい在り方に対する意識の向上を図る。	○新学習指導要領・新テストに対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方についての話し合いを進めていく。 ○主体的な学びや対話的な学びの過程で、ICTを効果的に活用する。 ○ICTの活用などに際しては、教員間でのノウハウの共有化を図るなど研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	科目ごとに学習指導や指導方法の在り方について話し合いを進めてきたが、理科全体としての話し合いの場をもつ機会がなかなか得られなかったので、さらに充実に図る必要がある。また、各科目でICTを積極的に活用し、教育活動に生かす場面が多く見られた。今後は理科全体で共有化できる機会を設け、より充実に図っていききたいと思う。	
保健体育	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A	生徒の主体的で深い学びを促進すべく、各授業を通じて生徒との関わり方の工夫に努めたい。進路実現に向けて体力面からもアプローチしたい。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A A		指導内容を段階的、系統的に体系化を図り、生徒の伸長に寄与したい。 研修会への参加や教科会を通じて授業方法の改善を図り、生徒の主体的活動の契機としたい。
		歩く会の高い完歩率を維持させる。	○集団行動における規律と態度を学ばせ、有意義な集団生活を送らせる。 ○体力向上のために、計画的な授業計画を立て、意欲的な楽しい展開とする。	A		伝統行事の「歩く会」の意義を理解させるとともに、健康面への配慮を念頭におきながらも体力の向上を図っていききたい。
	体力テストの成績の底上げを図る。	○長距離走への積極的な取り組みにより、体力向上を図る。 ○本校生の弱い部分の強化を図る内容を工夫する。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。 ○本校生徒は筋力に関する種目が弱いので、毎授業において、補強運動を実践する。	A	基礎体力の養成から体力の向上に繋がり、ひいては生涯にわたって健康生活や豊かなスポーツライフを送ることができる点を理解させ、粘り強く生徒の指導にあたっていききたい。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
保健体育	授業時のケガの防止に努める。	○正しい動きを身につけることがケガの防止につながるため、細かく基本的な動きを指導するとともに、自ら用具の安全管理に努める態度を育てる。 ○授業に臨むに当たり、熱中症対策を理解し防止策をたてる。 ○校外を走ることが多いので、交通安全に注意して身を守ることと、相手に迷惑を与えない行動が取れるように実施する。	B	A	基本的なスキルの獲得と安全面への配慮を念頭に授業に取り組むようにする。基本的なスキルは競技性を高めるだけでなくケガの防止にもつながり、安全面の配慮は事故の防止につながる点を踏まえながら指導に努めたい。
	「保健」をとおして心身の健康保持を図る。	○「保健」をとおし、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自分たちの役割を理解させる。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題を理解するとともに、社会的な課題における自身の役割を理解する。	A		「保健」の授業では、各自の健康課題を理解させ、生活実践に活かす指導を行いたい。そのためには、グローバルな視座にも立ちながら健康課題をとらえる指導に取り組んでいきたい。
各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A		基礎的な内容を重視し、さらに本質を幅広く深く理解追求する姿勢を意識させ、進路意識もより高まるよう指導を進めた。次年度も継続して行いたい。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A	A	各単元ごとの目標を明確にし計画的に展開すること、かつ、その目標設定を生徒の意欲がより上がるラインに細やかに設定することで、生徒の主体的な取り組みが活発になった。
			B		校外での各種研究会などに参加し、実技・実習のあり方を探れた。音美書とともに、さらに実技研修を継続し、それぞれが研究会など、県内だけでなく全国レベルでの接触を持つよう努める。
芸術	鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○校外学習等の鑑賞会を実施して、より多くの作品に接する機会を増やし、本物だけが持つ魅力を体感させ、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○授業で数多くの作品を取り上げ、鑑賞させる事により、芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。	A		校外鑑賞学習は、音美書そろっての近代美術館での鑑賞会を実施でき、芸術の持つ奥深さを感じることができた。目標は概ね達成された。
	自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間を確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○アクティブ・ラーニングを意識した、能動的な学習を取り入れ、より活性化した授業展開を目指す。	B	B	積極的に実技・実習に取り組み、内容の充実した作品・演奏を完成させようという姿勢が身に付いた。授業時間ばかりでなく、朝、昼休み、放課後等に自主的に取り組む生徒もいるなど、高い意識で主体的に取り組む姿勢が見られた。次年度も、本校生に適した、基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指したい。また、さらに能動的な学習を取り入れ活発な授業展開を研究していきたい。
	新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの指導ができるよう努める。	B		幅広い作品を学習することで、芸術に対する視野が広まると共に、社会や人生における真の豊かさを探求できる態度が育った。次年度は、より積極的に個人でも美術展や音楽会に行きたいという気持ちが高まるよう指導を進めたい。
外国語	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A		教材内容に対して興味関心を高める活動を多く取り入れ、生徒が主体的に取り組めるよう工夫した。技能と同時に知識を身に付けられるよう、今後も指導方法の工夫に努める。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	A	各科目担当者間で教材作成や指導方法について随時話し合い、概ね共通理解を持って指導できた。次年度は更に指導目標の相互理解に努めると共に内容も充実させたい。
			A		校内外の授業見学や研修会などを利用して各自が研鑽を積んだ。電子黒板の効果的な活用が各自進んでいるので。情報共有をし更に改善を図っていきたい。
	1年 英語を読み、書き、聞き、話す活動とその適切な評価を通して、実践的コミュニケーション能力の基礎となる4技能の基本運用力を育成する。	○コミュニケーション英語 I では、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、より実践的なコミュニケーションを図るための基本知識と技能を養成する。 ○英語表現 I では、技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で適切に自己表現するための基本知識と技能を養成する。 ○授業での指導内容と関連させながら、サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力を涵養し、より正確な英文理解力および表現力を養成する。 ○テスト問題の改良や適切なパフォーマンス評価を実施して生徒の英語力を正確に測るとともに、更なる学習の動機付けに資するような評価の在り方を考える。 ○グループワークやペアワークを多く取り入れ、英語による発信力を強化する。	A	A	コミュニケーション英語 I では、内容理解や英語の要約だけでなく、問答を通じた自己表現など、様々な言語活動を行うことができた。また、レッスンの内容に即してティームティーチングを実施することにより、より深く英語を学ぶと同時に幅広い価値観の涵養を図ることができた。英語表現 I では、体系的に文法を学習するとともに、課毎にエッセイライティングの時間を確保し、英作文に対する耐性を高めることができた。次年度は、今年度に引き続きサイドリーダーの多読を励行し、既習内容を基礎としたより正確な英語の運用力を養えるよう指導をしていきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
外国語	2年 英語4技能を使った活動を効果的に行い、正確な英文理解力と表現力を中心に、実践的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。	○コミュニケーション英語Ⅱでは、題材内容について様々な活動を行いながら、英文の理解を深め、読解力を高める。また、実践的コミュニケーションの基礎となる知識と技能を養成する。 ○英語表現Ⅱでは、構成を意識した英作文の指導とともに、ディベートなど技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で論理的に表現するための知識と技能を養成する。 ○サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力の涵養と正確な英文理解力・表現力を養成する。 ○考查問題の工夫や適切なパフォーマンス評価(話す・書く)を実施し、生徒の英語力を正確に測るとともに学習の動機付けに資するような評価のありかたを工夫する。 ○活動やパフォーマンステストを通じて4技能の運用力、英語で考える力を伸ばす。	B	A	コミュニケーション英語Ⅱでは、Q&Aやパラフレーズ、リテリングなどの活動やスピーチなどの視聴覚教材の導入で、英文をそのまま理解し、学んだ内容を英語で表現できる生徒が増えた。英語表現Ⅱでは、和文英訳、自由英作文、リスニング、ディベートによるディベート活動を通して、多くの生徒が英語で自分の意見を表現できるようになった。他者の意見を聞いて論理的に対応できる生徒も増えている。また、課題研究についてのプレゼンテーションや課ごとの英作文を行い、4技能の運用力を伸ばした。自ら英語を学ぶ力の涵養のためサイドリーダーや週末の自学教材を導入し、その内容について毎週小テストを実施して、読解力、文法の知識、時事問題に関する語彙力の定着を高めた。今後はより高いレベルで適切な運用ができるよう、既習事項の復習や整理を行っていききたい。
	3年 英語4技能の習熟に努めながら、より発展的な理解力および表現力を育成する。	○英語表現Ⅱでは、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。基本的な表現はもとより、読んだり聞いたりした事柄について、その内容の要約や、その内容に対する自分の意見を書くなど、まとまった英文を書く力を養う。 ○リーディング演習では、表現活動を取り入れながら、情報を検索する、正確に読む、など、その目的に合わせた多様な読解力を養う。 ○音声や映像を活用し、読解力と並行して聴解力の向上を図る。 ○授業中だけでなく、自習課題も活用し、大意を把握する力と必要に応じて細部を正確に読み取る力をさらに向上させ、大学入試に対応できる力を養成する。 ○エッセイを作成をさせ、授業中および定期考査や校内模試等で評価する。	A		大半の生徒が自己表現のための知識や技能を身につけることができた。要約に関しては、リーディング演習や特編授業で練習を積むことで上達した。読解に関しては、目的に応じたリーディングスキルを身につけることができた。とくに英文解釈の演習を積み重ねることで、難関大学入試にも十分対応できるレベルで英文を正確に読むことができる生徒が増えた。リスニングに関しては、電子黒板の機能をフルに活用して音声だけでなく映像を利用することで聴解力を高めることができた。エッセイに関しては、定期考査や校内模試で評価するとともに、個別添削指導でさらに習熟度を上げることができた。
家庭	各科共通 教科指導全般 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B	基礎、基本的な習得のため、生徒の実態を把握し、生徒の実態を考慮した実習や実験を多く設定し、確実に「生きる力」を身に付けさせたい。
		○60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B		8クラスの授業を2人で担当しているので、教材や指導方法の話し合いを十分行い、連携をして授業を展開していききたい。
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	A		生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を育成するための授業実践を進めていききたい。
	基礎・基本の内容を体験を通して理解させ、問題を見つけ、よりよい生活に変えていこうとする態度と生きる力を育てる。	○実験・実習内容の工夫と精選をし、知識と体験の定着を図る。 ○自ら学び自ら考える力を育て、身近な生活と自分の人生に反映していこうとする態度が身につく授業の展開と充実に努める。	A	B	4月の授業の最初に生徒にアンケートを実施し、中学校で学習した内容や生徒個人の生活力を把握し、年間を通して様々な分野で基礎・基本となる授業を行うよう計画したい。
各分野の関連性・重要性を見だし、日常生活と比較させることで、主体的・総合的に生きようとする意識・態度を育てる。	○夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援し、日常生活の中の問題点・改善点を認識させ、生活の質の向上に結びつくように工夫する。	B	夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援していききたい。		
情報	各科共通 教科指導全般 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A	特に「統計学」の分野において、可能な限り生徒の進路に結びつくテーマを選んで授業をおこなうことができた。
		○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B		指導要領の改訂を見据え、プログラミング教育の充実等、内容を再構成し授業の充実に努めていききたい。
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A		引き続き、高教研情報部の研修や外部のICT研究大会への参加等を通して、最新の情報を得ることに努める。
情報	学習活動を通じて、情報モラルに対する知識・理解を深め、適切に行動できるようにする。	○授業において、情報機器の活用や言語活動を通して、個人情報取り扱いやネチケットなど情報モラルに対する知識・理解を深め、生徒がそれを適切に実践できるようにする。	B	B	情報モラルに関して、生徒の中には問題意識が希薄な者が若干見受けられる。SNSの正しい使い方等、着実な定着を図っていききたい。
	各種ソフトウェアを活用してプレゼンテーション能力の向上を図る。	○ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアを活用し、効果的なプレゼンテーションをするために必要な「調べる」「まとめる」「分かりやすく発表する」「相互に議論する」能力を高める。	B		各自の興味関心に応じ、発表、質疑応答まで生徒が自分たちでプレゼンテーションをおこなうことができた。2年時に全員がおこなう「課題研究」や、その後の進路選択への呼び水としたい。
教務	授業時間を確保する。	○授業の曜日変更をして、定期考査間の授業時数を均一化をはかるとともに、自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。また、拡充した夏季課外を円滑に実施する。	A	A	曜日変更により定期考査間の授業時数はほぼ均等にすることができ、また出張・年休による授業もほぼ完全に振り替えることができた。また、55分4時限に拡充した夏季課外も円滑に実施することができた。次年度は単位数の少ない科目の変更の在り方を検討したい。
	授業内容のさらなる充実に努める。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、電子黒板を活用するなどして、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	A		研究構想部との連携のもと、校内授業公開期間に全教員が電子黒板を活用した授業を行うなどし、より教育効果の高い授業を展開することができた。次年度は、書画カメラの活用も含め電子黒板の利用を一層工夫し、授業の質のさらなる向上に向けた取り組みを研究構想部と連携して行っていききたい。
	平成31年度以降の教育課程の検討をする。	○新学習指導要領の告示を踏まえ、単位制を活用した、より教育効果の高いカリキュラムの構築を目指すとともに、大学入試制度の変更を見据えた検討を進める。	B		A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	教育活動を公表する。	○学校説明会委員会や研究構想部と連携して、中学生対象の水戸一高説明会、小学生対象説明会、学習塾対象説明会の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高の教育理念を周知する。	A	各説明会や学校公開を予定どおり実施するとともに、校長作成の新しいポスターを各中学校に配付し、広報活動に努めることができた。次年度は各説明会の時期、内容の検討により、よりよいものにしていきたい。 支援システムの更新は担当者の尽力により順調に運用され、先生方の負担軽減につながっている。次年度は教務の担当者を増やすこと、システムの機能を各担任が活用しやすい環境を整えることに取り組みたい。
	単位制支援システムの運用を図る。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。	A	
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○各委員会生徒と密接な連携を図り、明確な活動計画の基で各行事の運営を行う。 ○生徒の自主・自立の精神を尊重しながら、適切な指導を行うことで、質の向上を追求する。 ○生徒会役員の選出方法改正を実現し、新たな生徒会活動を検討する。 ○学習活動や他の諸活動とのバランスをとり、学校行事の充実度85%以上を目指す。	A	生徒会役員選出方法の改正が実現した事を受けて、さらなる生徒会活動の充実を継続して検討していきたい。また、複数の委員会・部活動への所属、部活動と委員会活動への所属など特別活動への生徒の参加意欲は高く、充実度も高い数値を示している。そのような中において、生徒の自主的な活動が基になる中で効果的な指導法、また生徒の創造性を高める指導法を継続的に検討していきたい。 A 部活動の加入率が95%を越え、部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が90%を越える。一方で部活動と学習を両立させている生徒が70%に満たない。この問題を継続的に検討し、両立の工夫を考えていきたい。 C 部活動の広報においては、的確に実施できなかった。迅速かつ効果的な広報を実施するための体制や方法を継続して検討していきたい。
	部活動を通じて、目標に向かって協力し努力する態度を育成する。	○部活動の加入を積極的に勧め、加入率95%以上を目指す。 ○各部活動で、活動方針、目標、活動計画を策定し、活動の充実・成績の向上を目指す。 ○休養日等を適切に配置して健康の維持をはかるとともに、学習活動との両立を目指す。	A	
	各種資料の整理を図るとともに広報を充実させる。	○校内において、部活動の活動状況を的確に整理する。 ○校外への広報活動では、HPの内容の充実と迅速な更新を行う。	C	
進路指導	生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、一人でも多くの生徒がその進路希望を実現できるよう支援し、同年度の卒業生に関して、現役時と卒業後の合格者合計で、難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大):80名、国公立大医学部医学科:20名、国公立大:220名を目指す。	○主に、1・2学年と連携し、生徒に最終的な進路目標に対して、今をどう位置づけ何を果たすべきかを自問する姿勢を育み、進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○1・2学年と連携し、医学科志望者に対して、大学見学会や体験学習等を実施することにより、医師を志すものとしての自覚を促し、動機づけの強化を図る。 ○3学年との連携を強め、進路室の環境をさらに向上させ、進路相談のさらなる充実を図る。 ○東大を含めた難関大および医学科の研究を通じて、「東大(難関大・医学科)研究会」を機能をさらに強化し、進路希望の実現に結びつける。	A	○進路意識の高揚については、1・2学年団による積極的な生徒への働きかけが年間を通じて計画的に実施され、十分にその目標を達成できた。 ○1・2学年との連携のもと、医学部進学志望者に対して大学見学会や病院での体験学習の他に、今年度は医学セミナーと題して、県医師会会長、筑波大学教授や信州大学名誉教授などによる講演会等を行い、来年度からの「医学コース」設置に向けて充実した取組を行うことができた。 ○東大(難関大・医学科)研究会についても、学年との連携のもとで学年個々の問題意識のもとに新たな取り組みを効果的に行うことができた。 ○数値目標の達成度については、3月の結果を待つ。 ○来年度についても、生徒一人ひとりを高い進路目標へと導き、主体的かつ計画的な学習が進められるように支援し、一人でも多くの生徒が進路実現できるよう指導の充実を図りたい。また、医学コースの設置に伴い、その「取組概要」と「学年別月別プログラム」を定めたところであるが、学年と連携し、より効果的な実施に努め改善していくことが必要である。
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、保護者対象の進路講演会等も実施し進路情報の共有に努める。 ○昨年度実施の大学研究室訪問にかわり、生徒が大学のオープンキャンパスに明確な目的意識のもとで積極的に参加し、得たい情報を自らすすんで獲得しその活用がはかれるよう、学年との連携のもとで事前・事後の指導を強化するなど、その指導の在り方の工夫に努める。 ○「進路通信」を定期的に発行し、情報を提供するとともに、進路意識を高める。 ○1・2学年も含め、3学年の主任との定期的な情報交換を行うことにより、学年の枠組みを超えて、進路指導に関わる問題意識の共有とその深化に努める。 ○新テストに向けて情報収集を行い、職員間に共有できるよう情報を提供する。	A A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒のデータを、3年間通して見渡せるような進路情報システムを確立し、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、さらに、指導技術の向上に努め、一層の進路指導の充実を図る。	○3年間の成績と最終的な大学の合否がリンクした形でのデータベースを完成させるとともに、職員間で利用しやすい形での加工モデルを作成する。 ○外部の研究会に積極的に参加し、その情報を教員間で共有し、生徒へ還元する。 ○校内模擬試験の位置付けを確実なものとし、その分析結果を本校独自の進学指導資料として活用する。 ○現役生はもちろん浪人した生徒も含めて、進路確定まで継続的な指導を目指す。	B	○3年間の学習成績と大学の合否がリンクした形でのデータベースの完成に関しては、データの蓄積は引き続き行ったが、出力設計を進められなかった。今後、年度内で出来る限り進めたい。 ○外部の研究会に積極的に参加した。また、その情報を職員間で共有するに当たり、その研究会資料をPDF化してzドライブに集積することにより、利用しやすい形にした。 ○校内模擬試験に関して、その分析結果を本校独自の進学資料として活用することについては、まだまだ十分ではない。校内模擬試験の位置づけを確実なものにすることについても引き続き努力していく必要がある。 ○浪人生対象の激励会を年2回実施し、浪人生への支援も行った。
研究構想	一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業を充実させる。	○「心に火をつけるフォーラム」「社会人インタビュー」「校風の理解(講演会)」「大学模擬講義(5教科主催)」を通して、自分の在り方・生き方や進路について考えさせ、学習への内発的動機付けに繋げる。 ○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して、自ら課題を発見し多様な視点から論理的にかつ批判的にその真理探究に向け考察する力や構築した自らの考えを自分の言葉で表現し他者に伝える力を培う。	B	本校では「心に火をつける教育」推進事業と銘打ち、「総合的な学習の時間」を活用して実施した。生徒の学ぶ意欲を喚起し、高い視点と広い視野を醸成し、将来の在り方・生き方について考えさせることができた。2学年全生徒が課題研究に取り組み、クラス発表会を経て、代表による「知道プロジェクト発表会」を実施することで充実した活動ができた。次年度も継続して取り組みたい。
	教員の授業力向上を図る。	○新任者授業見学会・校内授業公開による授業の質を向上させる実践研修、筑波大学附属高校等の教育研究大会・駿台教育研究所の教育研究セミナー等による指導法研修を行い、先進的な教育効果の高い授業を研究する。 ○校内教員研修会・県外進学校視察を行い、難関大学合格につながる進学指導とそれを支える生徒理解を深めるためのHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。	A	校内授業公開を年2回実施し、全教職員による相互授業参観に取り組み、授業力向上を図ることができた。筑波大学附属高校等の教育研究大会へ3名、駿台教育研究所の教育研究セミナー等へ5名を派遣し授業研究を行い、各教科へ普及した。校内教員研修会を実施し、本校のベテラン教員による講話からその動的情報を共有し、経験値を継承することができた。また県外進学校視察により、難関大学進学指導等の情報を得ることができた。次年度も継続して取り組みたい。
	開かれた学校づくりを推進する。	○中高連携や、高高・高大連携を推進し、教員や生徒が相互に連携・交流を深める。 ○学校公開、「道徳」公開授業、「知道プロジェクト発表会」の公開を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。	A	中高連携に関して附属中への出前授業を行い海外研修の成果を普及した。学校公開は、「道徳」や「道徳プラス」の授業を含めて、午後の3時限を公開授業とした。来校者は172名にのぼり、学習活動での高い評価を得ることができた。高大連携に関しては5名の生徒が大学で単位を認定された。次年度も継続して実施する。
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	○「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し、教科横断的な学びやコミュニケーション能力を向上させる機会を自らつかんでいくことで、主体的に自己の将来像を考えさせ、「道徳」「道徳プラス」を通して、規範意識や道徳的判断力への意欲・態度を育成する。 ○学習のしおり(シラバス)、課題研究優秀論文集、海外派遣プログラム報告書、紀要、本校独自の道徳ノートを作成し、3年間を見通した学習の計画や1年間の教育活動の振り返りに資する。	A	「道徳」や「道徳プラス」の授業を、「道徳ノート」を利用して効果的に実施できた。シラバスの充実により、講座選択や3年間を見通した学習が円滑に進められた。「課題研究優秀論文集」「海外派遣プログラム報告書」「紀要」により、1年間の教育活動の振り返りができた。次年度もグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指し、「心に火をつける教育」推進事業、授業研究等による指導力向上対策、開かれた学校づくり等、充実した教育活動の研究に継続して取り組みたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。特に来校者に対しては、必ず挨拶をするよう指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○水戸一高生として誇りの持てる行動をするよう指導する。	B	学校公開時のアンケートにも挨拶がよくできているという感想があったが、全体的に挨拶をする生徒は多いと思われる。今後もコミュニケーションの第一歩ということで指導していきたい。
	学校生活の安全を図る。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高生として自覚ある行動をとるよう指導する。 ○各学年、保健厚生部、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○ネット依存症防止のために、スマートフォンの適切な使用法を指導する。 ○ネット上で個人やグループに対する誹謗中傷や、SNSでの仲間はずれ、個人攻撃などをしないよう指導する。	B	落ち着いた学校生活を送ることができた。今後も、各学年、保健厚生部、スクールカウンセラー等との連携を密にし、生徒支援の体制をさらに強化していきたい。保護者との連携を図り、保護者の理解と協力で生徒指導にあたり、生徒の学校生活の充実を図りたい。また、スマートフォンの使い方について講師を招いて講習を行ったが、引き続き講習会を行い指導していきたい。
	交通安全の意識を向上させる。	○自転車は車道の左側通行など、交通法規の遵守を徹底させる。 ○自転車による交通事故ゼロを目指し、スマートフォンやイヤホンを使用しながら運転をしないなど、安全な自転車の乗り方を指導する。	B	12月末時点で、自転車の事故は1件であった。昨年と比べて減っており、自転車の乗り方のマナーは良くなりつつあるとおもわれる。今後も交通法規の遵守を呼びかけていきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	いじめ問題に適切に対応する。	○いじめの未然防止に努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見するために、各部署との連携を図り、職員全体で情報を共有する。 ○教職員対象の研修を実施し、いじめに対する意識を高める。	B	いじめに関するアンケートを毎月末に行ってきたが、いじめの認知件数は0件である。また、本校スクール・カウンセラーによる研修を行い、教員のいじめ未然防止に対する意識を高めることができた。いじめ対策会議を定期的に開催し、情報を共有することでいじめの未然防止に努めた。今後もいじめなしの学校を目指していく。
渉外	学校行事を各分掌、該当学年と連携して円滑に実施する。	○入学式・卒業式を、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。	B	入学式・卒業式とも保護者の出席率が高く、本校に対する保護者の期待と感謝の気持ちの表れと思われる。
	奨学会関係の事業を、各分掌、各学年と連携して円滑に進める。また、同窓会との関係を深めて、今年度完結する創立140周年事業に協力する。	○奨学会総会並びに奨学会役員会の企画・運営を、各分掌、各学年と協力して円滑に進めていく。 ○保護者や学年への連絡・報告を適切に行い、様々な学校行事が円滑に進められるように内容を工夫改善していく。 ○70%におよぶ奨学会総会の出席率を維持していく。 ○同窓会との連携・連絡を適切に行い、今年度完結する創立140周年事業に協力していく。 ○高等学校PTA連合会関連行事を用いて、本校教育活動の発信に努めていく。	B	B 今年度も奨学会役員会や奨学会総会で、生徒の活動を支援する予算項目の増額の継続が承認された。次年度以降も継続していきたい。奨学会総会の出席率は70.7%で高い出席率を維持できた。同窓会の140周年事業については、奨学会慶弔費を記念式典費用に振り替えることにより保護者の負担軽減を図ることができた。11月1日「茨城教育の日」をはじめ、高等学校PTA連合会関連行事へ参加した。
	奨学金関係事務を適正に実施する。	○奨学金関係の事務および奨学生の選考に関する事項等を、遅滞なく適切に行っていく。	B	奨学金については、生徒の希望に添った奨学金制度を紹介し遺漏なく手続きをすることができた。一方で卒業生との連絡作業量が増加し、連絡方法の改善が必要である。次年度も奨学金制度の普及と、奨学生の選考を適切に行っていく。
情報	教室に配備されたPCの利用に関する研究及び適切な運用を図る。	○スマートホンを利用する事などで生徒が情報機器に慣れた事、SNSの種類が増加し、様々な書込がネット上で行われている事、PCの処理能力の向上などもあり情報機器の種類が増加だけでなく、SNSをはじめとするオンラインゲームや動画・音楽配信の利用増加に伴い、FreeWiFiなどの要求が増える中、ウィルスの脅威だけではなく、自分だけではなく他人の個人情報の扱い、些細な書き込みからの”炎上”等の危険も意識しなければならない。SNSの利用時等の注意喚起だけでなくセキュリティの重要性を引き続き意識させてゆく必要がある。	B	○学校評価アンケートでも、Wi-Fi接続の要望も多く、生徒セグメントで使用するための情報を集め検討する必要があるものの、担任を含めた職員向けのPCの拡充が急務である。生徒セグメントのセキュリティの設定が動画配信サイトなどへのブロックが多い事に対する改善を求める意見や、FreeWi-Fiとすべきとの指摘があるが、電子黒板の使用法に限らず、SNSへの投稿などに対して更なる注意喚起をしなければならない状況も見られ、さらに注意を促していく必要がある。
	PC、PJの管理、貸与、運用を図る。さらに、個人情報の漏洩及びウィルスの侵入の防止を図る。	○教員各々が授業でもPCやPJを利用しており、設定の変更を行えるほど高いスキルを持っている。電子黒板の設置もあり、今後はIoT機器も増えると予想される事から、脆弱性を突いての個人情報漏洩やウィルス感染等、危険の増大を意識せざるをえない。PCやスマートホンの能力も上がり、デジタル化が進み情報を手軽に扱える分、ウィルスの種類の増加、個人情報の保護も難しくなっており、危険性を繰り返し喚起する必要がある。	A	B ○PC・PJの使用が更に増え、昨年以上に授業やHRでの活動が活発化しているものと考えられる。先生方がPCの設定を変更できるほどのスキルがそれだけ高いことを意味していると考えられる。電子黒板も導入され、職員向けのPCの確保が急務である。教師用PCも年間に数回はアップデートしなければならず、方法を考える必要がある。
	HPの充実を図る。	○今年度は学校WebPageの内容をさらに充実させ広報活動に貢献する。140周年でもあり、懸案である英語のページの充実、全部活動の掲載を早い時期に達成する。	B	○WebPageの更新は比較的順調に行われた。アンケートでは部活動を平等に紹介して欲しいとの要望があるが、その方法を考える必要がある。
	学校評価アンケートの処理の簡素化を図る。	○データの読み込みエラー減少は一応の成果が出たと考え、分析表でのグラフの正確性が低く、使用しているエクセルの挙動を引き続き検証しグラフの正確性を引き出す。	A	○データ読込時のエラーは更に減少し、集計用のグラフの乱れにも対応ができた。報告書の作成時間もかなり短縮ができた。
図書	自学自習を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○検索システムの更新を行い安定運用を図る。 ○各教科の授業で推奨図書を紹介を心掛けてもらう。	B	○図書管理・検索システムの更新で、メーカーサポートによる安全面、メンテナンス面が向上した。 ○教科から推薦を受けた図書の展示により生徒が手にとってみる回数が増えた。さらに授業との連携をどのように進めるかが課題である。
	読書活動の推進を図る。	○授業の中で図書館の積極的な利用を図る。 ○図書館利用者数や貸し出し増加を図るためのアイデアを検討する。 ○読書会等を実施し読書体験の啓発運動を行う。	A	A ○課題研究学習のための利用・貸出は多い。さらに通常授業での情報センターとしての利用を進めるための方法を検討したい。 ○情報提示モニタを活用し新規購入図書の紹介や図書館情報の提示を行った。 ○読書会等のイベント型活動は実施できなかった。生徒読書感想文コンクールは教科協力を得て県知事賞、県教育長賞を受賞した。
	生徒委員会活動のさらなる活性化を目指す。	○学級選出委員と希望委員が意欲的に活動できるよう委員会のリーダー育成について考慮する。	A	○学苑祭参加、校外生徒委員会研修会(県、水戸地区)、定期刊行物(冊子「図書」、新聞「ささやき」)の編集作業等について生徒が主体となって活動できた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書	機関誌を確実に発行し、本校の足跡を正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集作業を着実に行う。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行う。	B	○年報第20号について年度内発行に向けて制作を実施した。次年度は続く第21号について情報収集を実施していく。 ○図書館報2誌の制作を行った。
保健厚生	学習環境の整備に努める。	○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、ゴミの分別を行うようにする。 ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査を実施する。 ○モップや教室のカーテンのメンテナンスを行う。	A	A 目標としていたモップ交換の複数回実施やカーテンの更新／クリーニングに加え業者によるトイレのクリーニングなどを通して環境整備を行うことができた。 生徒及び保護者に対して、積極的に情報提供を行った。また、保健だよりについても専門的内容までカバーした充実した内容のものを届けることができた。防災避難訓練についても、例年行っている降下訓練に加え消防署職員の協力により、消火器使用訓練も実施することができた。
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会をとらえて、保健指導を行う。 ○日常生活の中で、事故・怪我等がないように身の回りの注意を払う。 ○スクールカウンセラーを有効に活用し、心身の健全な育成を目指す。 ○新興感染症に関する情報と予防法の周知と実践を指導する。 ○健康情報提供のための「保健だより」を、毎月1回発行する。 ○防災に対する意識を高め、校内の状況と避難経路の確認を怠らない生活をする。また、校外においても緊急事態に対応できる力をつける。	A	
1学年	基本的な生活習慣の養成を図る。	○挨拶の励行。 ○時間厳守。 ○規範意識の醸成。	B	B 入学当初より基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く見られ、年間を通し総じて落ち着いた学校生活を送ることができた。また、学校全体として支援を必要とする生徒も把握され、次年度以降も、保健厚生、養護教諭と連携し継続的に対応していくべきこととして学年団で情報共有することができた。規範意識の面ではごく一部にやや心配な行動も見られたので、今後も注意深く見守り成長を促していくつもりである。 「東大探訪」や「社会人インタビュー」などの進路指導部、研究構想部と連携した行事により、学問的興味関心が喚起され文理選択の一助とすることができた。また、学習面では、各教科の指導のもと一年間落ち着いた真面目な学習態度で臨むことができた。また、学年集会を月1回実施することによって、課題を全体で共有することができたが、主体的学習への移行については次年度への継続的課題としてさらに手立てを考えていく必要がある。家庭学習時間の平均はほぼ例年同様であるが、各教科からの課題の量を調整するなどして、なお一層の家庭学習時間の確保を促していくつもりである。 ほとんどの生徒が学校行事、部活動、委員会活動に積極的に参加し、それらの活動の中で他者と関わることで精神的な成長を遂げ、水戸一高生としての自覚と自信を身につけるに至った。次年度は特別活動において学校を引っ張る学年になるので、学年全体としてその自覚を促し、引き続き支援していきたい。
	自主自律的な学習習慣の養成を図る。	○知的興味関心の喚起。 ○主体的学習への移行支援。 ○家庭学習時間の確保。	B	
	特別活動への積極的参加を促す。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加の促進。 ○各種大会へ積極的参加の促進。	B	
2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。 ○時間厳守の徹底。 ○規範意識の確立。	A	A 日常における挨拶や時間厳守などの基本的な生活習慣については、多くの生徒が意識して生活しており、年間を通じて良好な生活態度を保つことができた。規範意識についても申し分なく、本校生としての節度ある振る舞いが随所にみられた。 養護教諭および保健厚生部との連携のもと、悩みを抱える生徒の早期発見に努めたが、悩みの解消に至っていない生徒もおり、引き続き支援していく必要がある。次年度は進路決定の重要な時期であり、生徒への精神的ケアについては、当該部署との十分な相談と保護者の理解・協力のもとで継続的に実施していく所存である。 進路行事および学年行事をととして生徒の知的興味を喚起したことにより、多くの生徒に進路に対する意識の高まりが見られた。部活動や委員会活動等の特別活動への取り組みも良好であり、自主的かつ前向きに参加する姿勢が随所にみられた。学習活動については、生徒個々の家庭学習時間の差が拡大し、十分な確保に至っていない生徒も少なからずいる。内発的動機づけを強化し、引き続き主体的な学習の確立に向けて支援を継続していく所存である。
	健康的な生活の定着を図る。	○養護教諭との連携。 ○悩みを抱える生徒の早期発見と細やかな精神的ケア。	B	
	自主自律的な学習習慣の確立を図る。	○知的興味関心の喚起。 ○主体的学習への意識改革。 ○家庭学習時間の確保と学習の質の向上。	B	
	特別活動への積極的関与を図る。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加の促進。 ○特別活動への主体的参加の支援。 ○各種大会への積極的参加の促進。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
3 学 年	進路実現にむけ主体的な学習の実践を図る。	○進路情報を精査し、高い進路目標を設定するための指導・支援。 ○授業を中心とした主体的かつ計画的な学習の促進。 ○進路実現にむけた意識醸成のための指導・支援。	A	A 受験学年として大学入試に向かう雰囲気が比較的早期に醸成され、年間を通して生徒の進路意識は高い儘に維持された。継続的な個別面談により、生徒の進路志望動向を詳細に掌握し個々の進路指導に資することができたが、生徒を取り巻く進路環境は年々多様化しており、生徒はもとより保護者とも情報を共有し、変化に即した進路指導がさらに求められる。 学校行事、部活動、委員会活動等、学校生活全般にわたり水戸一高の伝統を継承する意図のもと主体的かつ意欲的に取り組む姿勢が見られ、その経験が多くの生徒の精神的自律を促した。一方で、生徒が社会の一員として自身の在り方・生き方を模索する契機となるよう、生徒個々の個性や才能の伸長に繋がるよう、特別活動の在り方については今後具に検証していく必要がある。 学校生活において生徒は平素より時間の厳守、挨拶、清掃活動を励行しており、基本的な生活習慣が確立していることを窺わせた。また、入学当初は他者との意思疎通に苦手意識を持つ生徒も多く見受けられたが、教員や上級生・級友等の多様な他者との関わりの中で相互に認め合い、落ち着きある人的環境が醸成された。生徒は概して規範意識が高く遵法性に富んでおり、将来実社会において、さらに多様な価値観に晒された際にも変わらぬ姿勢で臨むことが期待される。
	親和寛容の精神を涵養し、精神的自律を図る。	○自らの在り方・生き方に対する指導・支援。 ○個性や才能を伸ばし社会貢献しようとする進取の精神の獲得にむけた指導・支援。 ○社会の一員としての教養と品格を獲得するための指導・支援。	B	
	規範意識および基本的な生活習慣の確立を図る。	○実社会に通用する普遍的な規範意識確立のための支援。 ○学校生活における時間厳守、挨拶・清掃活動の励行促進。	A	

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない